

3 水稻糯新奨励品種「ふ系糯178号」

福島県農業試験場 冷害試験地、種芸部、会津支場、
相馬支場
平成6～11年水稻奨励品種決定調査成績書
分類コード01-01-01000000

部門名 水稻—水稻—品種
担当者 水稻奨励品種決定調査担当者

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) 水稻糯「ふ系糯178号」を新たに県奨励品種に採用する。
- (2) 「ふ系糯178号」は昭和61年に青森県農業試験場藤坂支場において「奥羽糯317号」を母とし、「ふ系141号」を父として交配を行い、昭和62年に同組合せのF1を母とし、「ふ系143号(後のヤマウタ)」を父として交配、育成された。平成6年から奨励品種決定基本調査に供試され、本県への適応性を調査してきた。
- (3) 「ふ系糯178号」は出穂期、成熟期が「ヒメノモチ」より5日程度早い早生である。稈長は「ヒメノモチ」より短く、穂数はやや多い中間型である。稈はやや太く、耐倒伏性は「強」である。耐冷性は「極強」である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-aと推定され、ほ場抵抗性は葉いもち、穂いもちとも「強」である。
- (4) 収量は「ヒメノモチ」並みである。品質は「ヒメノモチ」並みであるが、「ヒメノモチ」の成熟期が遅いために品質が低下する地域では優る。食味は「ヒメノモチ」より1ランク劣るが、製餅の硬化速度が速く、切り餅等への加工に適する。

2 期待される効果

「ふ系糯178号」の導入により、山間高冷地において品種の分散が可能となり、安定生産が図られる。

3 適用範囲

阿武隈、会津山間地域のかつて「サカキモチ」が作付けされていた地域で、普及見込み面積は300haとする。

4 普及上の留意点

- (1) 穂発芽性が「やや易」であるので、適期に刈り取りを行う。
- (2) いもち病ほ場抵抗性は「強」であるが、発生が予想される場合には適期に防除を行う。

II 具体的データ等

表1 特性一覧表		冷害試験地（平成6年～11年）	
系統名・品種名		ふ系糯178号	ヒメノモチ
施肥 ^{※1}		標肥：多肥	標肥：多肥
出穂期（月・日）		8.5：8.5	8.9：8.11
成熟期（月・日）		9.19：9.20	9.24：9.27
稈長（cm）		71.5：75.8	81.8：87.6
穂長（cm）		16.7：16.8	17.2：17.2
穂数（本/m ² ）		475：524	439：487
芒の多少・長短		稀・極短	稀・極短
心脱粒性		褐色 難	黄白 難
耐倒伏性		強	中
穂発芽性		やや易	易
障害型耐冷性		極強	中
遺伝子型		Pi-a	Pi-k
葉いもち		強	強
穂いもち		強	強
収量性（kg/a）		66.8：72.7	65.2：70.5
千粒重（g）		20.8：20.4	21.4：20.3
玄米品質		4.6：5.0	4.5：4.8
食味の硬化性 ^{※2}		中上 0.47	上下 0.98

※1 施肥は標肥がN0.8kg/a、多肥がN1.2kg/a。

※2 新潟県食品総合研究所方式に準ずる。数値が小さいほど硬化速度が速い。

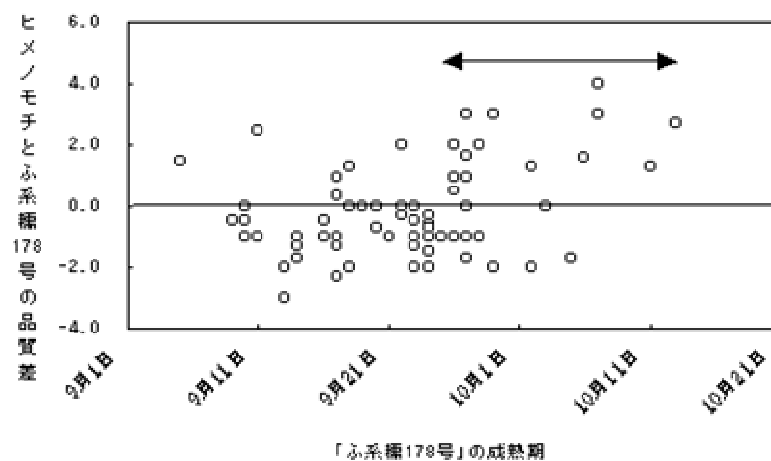


図1 「ふ系糯178号」の成熟期の早晩が品質に与える影響

縦軸は品質を9段階評価(1:上上～9:下下)したときの「ヒメノモチ」と「ふ系糯178号」の差を示した。成熟期が遅くなる地域・年次では「ふ系糯178号」の品質が「ヒメノモチ」より優る(矢印の範囲)。

Ⅲ その他

1 執筆者 :新妻和敏・荒川市郎

2 主な参考文献・資料:(1)新品種決定に関する参考成績書 水稻「ふ系糯178号」青森農試藤坂支場